

学生の文章表現 —問題の所在—

星 野 和 子

Students' Writing Problems

Kazuko HOSHINO

はじめに

大学や短大に入学してくる第一年次の学生に幼稚な、奇妙な文を書く者が目立つ。留学生に対しては日本語教育の初めから『文章表現』にかなりの力が注がれており、体系的に文章表現能力を養う努力がなされているため、語彙のサイズが小さい、助詞や構文上の間違いなど、問題点は容易に指摘される。しかし、日本人学生を書く文章の奇妙さはこれらとは異なる。最近『国語表現法』のような授業科目名の下に日本人大学生のための『文章表現』や『口頭表現』の時間を設ける大学や短期大学もある。学ぶべき項目や課題を羅列した教科書や参考書も多々あるが、課題を与え文章を書かせて添削すれば良いとされる文章が書けるようになるだろうか。5年間にわたって考察した結果では答えは否である。学生を個々に指導することは大切であるが、学生が共通に抱える問題点を知っていればより効率的な授業ができる。そこで、問題の所在を明らかにするために短期大学一年生にいくつかの課題を与え、文章を書かせてみた。そこで得た結果は文章表現以前にも問題があることを示唆するが、多くの学生に共通の問題点は訓練によってある程度改善できると思われる。そして、そうすることが短大や学部的一般教育過程における『日本人学生のための日本語教育』に課せられた使命であろう。

1. 問題の所在—仮設

女子短大生に与えた課題と結果を簡単にまとめると下記のようなになる。

- (1)「質問」と「答え」からなる会話形式の新聞記事の内容を一定字数以内の文章に要約する課題では、単に会話文を叙述文に変えるだけで話題ごとに順序を変えてまとめられない。「XがAと質問すると、YがBと答えた」という形に直す者も少なくない。
- (2)新聞の社会面記事を読んで話題の主人公のプロフィールを記す課題では、事件の内容や関係者のプロフィールに惑わされ、どの指示表現が主人公を指すのか見極められない。
- (3)芥川龍之介『藪の中』を読んで事件の事実だけを取り出す課題では、客観的事実と各登場人物の言い分との区別がつかない。
- (4)最寄り駅から自宅までの地図を描いた上でそれを文章で説明する課題では、他人の判読できる地図が描けず、目印となる商店などの建物や名称が思い出せない。距離もはっきりせず、地図と文章説明とが一致しない。
- (5)カレーなど簡単な料理のレシピを文章にする課題では、材料(名称、量など)・切り方・調味料・料理法・各過程の所用時間などの記述がでたらめに近い。「ちゃんと切る」「ちゃんと味を付ける」など「ちゃんと」が乱発される。

これらが示唆するのは以下のことである。

- (1)一般常識に欠ける、

(2) キーワード・ランドマークの認識ができない、

(3) 表現法を知らない。

他者の書いた文章の中からキーワードが抜き出せなければ要旨は掴めない。道順の場合は通り道にあるランドマークの認識ができなければ、通い慣れた道であっても他人に分かるように説明することはできない。コミュニケーションの究極の目的は自分の考えや要求を相手に理解させ、「相手を自分の希望通りに動かす」ことであろう。しかし、これでは一方通行のコミュニケーションである。相手の考えや要求を理解し、それに応えることが出来て初めて双方向のコミュニケーションが成り立つ。しかし、女子短大生の文章には相手に分らせようとする配慮が多くの場合見られない。特定の場合（あるいは社会）における自分の占める位置が掴めない。自分と他者との関係がはっきり認識できない、他人の言うことを聞き流す、といった日ごろの態度が文章に現れている、ということである。そこで次のことがもう一つの問題点として付け加えられる。

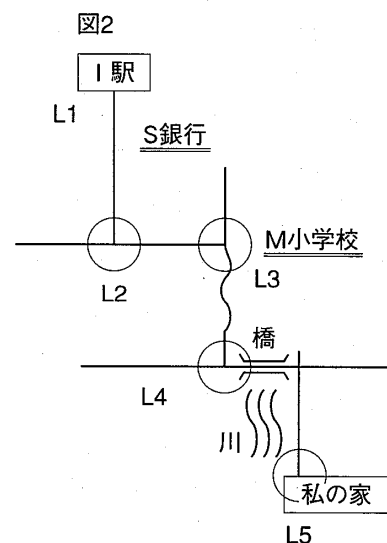
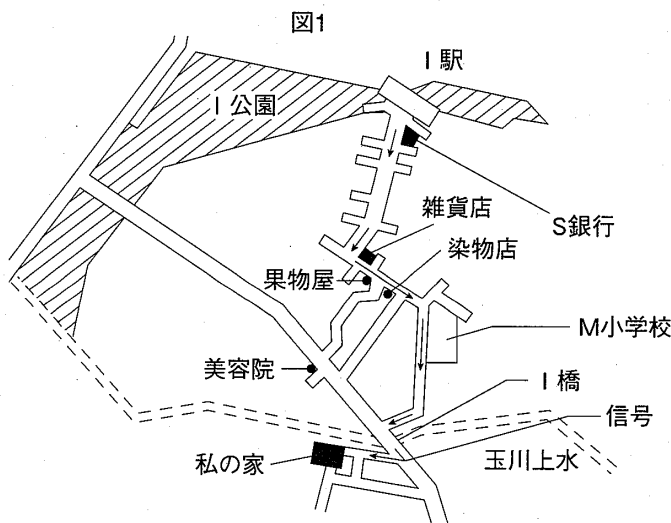
(4) 物事を正しく認識し、相手に理解させようという配慮がない。

この仮説をふまえた上で学生に新たな課題を与え、その文章を検討してみる。文章を書いたのは一年生(2クラス、43名)である。

2. 課題と解例

2.1. 課題

「私の家」はI駅から徒歩12分のところにあります。I駅から「私の家」までの道順を矢印にそって説明しなさい。(図1参照)



2.2. 解例 (7文: 計176字)

- 1: 23字: 私の家はI駅から歩いて12分のところにあります。
- 2: 19字: 改札口を出ると左手にS銀行が見えます。
- 3: 27字: 駅を背にS銀行の前の道を進むと、T字路にぶつかります。
- 4: 29字: そこを左に曲ると、やがて正面に小学校の建物が見えてきます。
- 5: 34字: その建物に沿って右に曲り、道なりに進むと再びT字路に突き当たります。
- 6: 32字: そこを左に曲り、橋を渡ってすぐ右に折れ、川沿いに進んでください。
- 7: 12字: 突き当たりが私の家です。

この解例は延べ176字7文で、1文の長さは最大34字である。上記(1: 23字)は第1文が句読点を含め23字であることを示す。与えられたランドマークのうち使用したのは「私の家」「I駅」「徒歩12分」「S銀行」

「小学校」「橋」「川（玉川上水）」の計7個である。そのうち「私の家」と「S銀行」は2回用いている。新しくランドマークとして加えた語は「T字路」と「突き当たり」である。この解例からは図2のような順路パターンがイメージされるはずであり、○で囲んだ部分が主要ランドマークとなる。それをそれぞれLM1(I 駅)、LM2(雑貨店のある曲がり角)、LM3(M小学校の曲がり角)、LM4(T字路、橋、信号のある地点)、LM5(私の家)とすると、解例で道順説明に用いた文型は次のようになる。

- 第1文： 私の家は、aにあります。
第2文(LM1)： ①～すると、bが見えます。
第3文(LM1)→(LM2)： ②～すると、cにぶつかります。
第4文(LM2)→(LM3)： ③～すると、dが見えてきます。
第5文(LM3)→(LM4)： ④～し、⑤～すると、eに突き当たります。
第6文(LM4)： ⑥～し、⑦～して、⑧～し、⑨～して下さい。
第7文(LM5) fが私の家です。

ランドマーク：

a：I 駅から歩いて12分のところ、b：S銀行、c：T字路、d：小学校の建物、e：T字路、f：突き当たり

移動動作と方向：

- ①改札口を出る、②S銀行の前の道を進む、③左に曲がる、④右に曲がる、
⑤道なりに進む、⑥左に曲がる、⑦橋を渡る、⑧右に折れる、⑨川沿いに進む

第1文、第7文は単文で、第2文～第6文は複文である。複文のパターンは「～すると～が（ある／見える／ぶつかる／突き当たる）」と「～し（て）～し（て）～する」の二つである。前者は「発見表現」のパターンであり、後者は「継起的動作表現」のパターンである。動詞（補助動詞を除く）は「移動指示」が[歩く、出る、進む、曲がる、渡る、折れる]の6語、「存在表現」が[ある、見える]の2語、「状態表現」が[ぶつかる、突き当たる]の2語である。「方向・位置」を示す表現としては[左手、背、前、左、正面、右、道なり、川沿い]の8語、「道の形態」を表す表現は[T字路、突き当たり、橋]の3語である。ここから道順説明に欠かせない一般的なキーワードとして以下の語が考えられよう。

左手（右手）、左（右）、T字路（十字路、三叉路、交差点）、突き当たり、正面、進む、曲る（折れる）、渡る、突き当たる（ぶつかる）、
道なりに、～沿いに（沿って）

また、文の型としては「発見表現」のパターンと移動動作を促す「継起的動作表現」のパターンを使うのがよいと言えよう。

道順説明では、一般に、出発地点（I 駅）と目的地（私の家）までの距離（徒歩12分）についての情報は最初に与えるのが親切である。また、文は主要なランドマークごとに切れている方が分かりやすい。従って、道順説明の文章では多くの場合、文の数とランドマークの数が一致することになる。この文章ではLM1で「左手にS銀行」と指定することで正しい位置にいることが確認できる。LM1→LM2では「左手にS銀行」と「駅を背に」と表現することで進むべき道が駅に対してほぼ直角に走っていることが分る。LM2→LM3では「T字路」と「左に曲る」で進む方向が分るため、特に「雑貨店」に言及する必要はないが、「左角に雑貨店がある」ことを念のために付け加えてもよい。日本の学校の建物は独特の形をしているから「小学校の建物」で十分ランドマークになる。銀行と違い「M」という学校名は遠くからは分らないことが多いので強いて告げる必要はないだろう。LM3→LM4では「正面に小学校の建物」、「建物に沿って右に曲る」で進む方向が分り、「道なりに」でこの道が真っ直ぐではないが一本道であることが分る。LM4では「T字路」「左に曲り」

「橋を渡って」「すぐ右に折れ」で「T字路」と「橋」とがそれほど離れていないことが分るので、必ずしも「信号」に言及する必要はない。「川沿いに進む」と「突き当たり」ということで「私の家」は分るはずであり、途中に分岐点がいくつあろうと言及しなくてもよい。道順説明では名詞の修飾要素はなるべく短いほうが分かりやすい。この文章中の連体修飾は「私の家」「駅から歩いて12分」「S銀行の前の道」「小学校の建物」「その建物」である。

3. 考察結果

3.1. 分体と延べ字数

普通体で記述したもの4例、丁寧体で記述したもの39例であった。延べ字数は201-225が12名で最も多く、次いで226-250の6名である。201-250字で計18名（41.9%）が道順を説明したことになる。151-200と251-300はそれぞれ8名と7名であるから151-300で33名（76.8%）が説明している。文の長さが極端に長かったり短かったりしたものを除いて全体の約4分の3の学生が同じ道順を説明するのに、最小と最大では文の長さ（字数）に2倍の差がある。ちなみに最小延べ字数は108字（普通体）、最多延べ字数は360字（丁寧体）あり、後者は前者の実に3倍以上の長さを要している。ただし、文章の延べ字数は漢字の使用率にも関わりがある。文の数は延べ字数の増加に連れて増える。6文から9文までが25例で全体の約58%を占めるが、主要なランドマークごとに文が切れているとはいえない。この結果は道順説明をしたり受けたりする機会があまりないということを示唆する。道順説明は女子短大生の常識として定着していないと判断してもよいであろう。

表1：延べ字数と文の数

文/延	108-150	151-175	176-200	201-225	226-250	251-275	276-300	301-325	326- 計
3		1							1
4	3								3
5	2		1						3
6		2	1	1	1	1			6
7		1	1	4					6
8			2	2	1				6
9				1	3	2		1	7
10				2			1		3
11				1	1	1	1		4
12							1	1	2
14									1
16								1	1
計	5	4	4	12	6	4	3	3	2 43

3.2. ランドマーク使用率

ランドマーク使用率（表2）は9と10が最も多くそれぞれ9名と10名、次が8と11でそれぞれ8名と7名である。8～11のランドマークを用いたものが34名（79.1%）となる。延べ字数が多いものほど使用ランドマーク数も多い。しかし、道順説明におけるランドマークの数は多いほどよいというものではなく、必要最低限にとどめたほうが分かりやすい。

表2：ランドマーク使用率（延べ字数／ランドマーク数）

字/マーク	4	5	6	7	8	9	10	11	計
110-150			1		3		1		5
151-175	1				1		2		4
176-200				2	1		1		4
201-225				1	2	4	2	3	12
226-250		1	1	1		2		1	6
251-275						2	2		4
276-300					1		1	1	3
301-325			1			1		1	3
326-350							1		1
360								1	1
計	1	1	3	4	8	9	10	7	43

表3：ランドマーク使用率（文数／ランドマーク数）

字/マーク	4	5	6	7	8	9	10	11	計
3：					1				1
4：					2		1		3
5：			1		2				3
6：			1	1		1	3		6
7：	1			1	1	1		2	6
8：					1	1	1	3	6
9：		1	1	1		2	2		7
10：				1			1	1	3
11：					1	3			4
12：							1	1	2
14：							1		1
16：						1			1
計	1	1	3	4	8	9	10	7	43

3.3. ランドマーク地点の表現

ある地点に到達するための道順を説明するには次の三つの要素が必要である。

(1) 出発地点から到達地点までのおよその所用時間

(2) ランドマーク

(3) オリエンテーション（方向指示）

道順説明のためのランドマークは数が多ければよいというものではなく、キーになるものが最小限提示されている方が煩雑でなく分りよい。提示されたランドマーク12の中では上位6位までの「私の家」(41/43)、「雑貨店」(41/43)、「I 駅」(40/43)、「染物店」(40/43)、「果物屋」(39/43)、「小学校」(38/43)の使用率が高い。7位の「S 銀行」(34/43)と8位の「橋」(32/43)とはほぼ並び、9位の「信号」(24/43)はぐっと下がる。「玉川上水(川)」を使用したものは約半数の22名、「徒歩12分」という距離に言及したものはわずか15名、「公園」に言及したものは7名であった。「徒歩12分」という距離は最初に記したものと最後に記したものが半数ずつであった。「美容院」に言及したものはさすがに皆無であった。しかし、「美容院」へのラ

ランドマークである「果物屋」「染物店」に大多数が言及しているのはキーワードの認識の仕方に問題があるということである。自明のこととは言え、「私の家」に全く言及しないものが2例あるのは問題である。

表4：ランドマーク使用率（ランドマーク／延べ字数）

学生数	5	4	4	12	6	4	3	3	2	43
＼字	110-150	151-175	176-200	201-225	226-250	251-275	276-300	301-325	326-	計
私の家	5	3	4	12	5	4	3	3	2	41
雑貨店	4	4	3	12	6	4	3	3	2	41
I 駅	5	4	3	12	4	4	3	3	2	40
染物店	5	3	4	11	5	4	3	3	2	40
果物屋	5	3	4	11	5	4	2	3	2	39
小学校	4	3	3	11	6	4	3	2	2	38
S 銀行	4	2	3	11	4	4	3	2	1	34
橋	3	3	4	11	2	4	1	2	2	32
信号	1	3	2	9	3	2	1	1	2	24
(川)	2	3	2	4	3	2	3		2	21
徒歩12分	1	1		4	2	1	3	2	1	15
公園	1		1	1		2	1		1	7
美容院										0

ランドマーク地点ごとにこれらがどのように表現されていたかを以下に示すが、何をランドマークとしているのか不明な文がかなりある。

LM1地点：I 駅

下車駅名を記さないものが3例あった。駅からの所用時間を示したものは15例（34.9%）に過ぎない。この地図では道があるのは駅の下方のみであるが、それが不明なこととし「I 駅の公園側に出る」「I 駅を出て南の方へ行く」「S 銀行のある方面に出る」と指定している例もある。しかし、#1のように出口を指定しても奇妙な表現がある。

#1. I 駅のS 銀行側がある改札口を出てまっすぐ歩くと雑貨店があります。

LM1→LM2：駅前から最初のT字路まで

方向を示す語としては32名が「まっすぐ」、8名が「直進」、1名が「駅を背にして」を使用している。移動動詞は「直進する」以外に「歩く」「進む」「行く」「くだる」が用いられている。「直進する」や「左折／右折する」は意識して漢語を用いたのではなく、自動車の運転用語をそのままもってきたと考えられる。

この区間に限らず方向（転換）を表すには以下の語が用いられている。

1. 曲がる（36名）、2. 左折／右折（11名）、3. 直進（8名）、4. 入る（6名）5. 真っ直ぐ（32名）、6. 道なりに（8名）

LM2地点：雑貨店が左角にあるT字路

雑貨店に言及しないものが2名いるが、雑貨店に言及した文の中にもどこで左折するのか不明のものがいくつかある（例えば#2、#3、#4）。この地点は次のように記されている。

突き当たり／突き当たる（13名）、T字路（7名）、T路地（1名）、Tじろう（1名）

T字（2名）、行き止まり（1名）、ぶつかる（1名）

「T字路」は「T字路」を間違えて覚えたものであろうが、「T字路」を「Tじろう」とした学生は「十字路」も「じゅうじろう」としている。「じゅうじろう」とした学生は他にもう一人いる。「行き止まり」は当然「突き当たり」のことであろう。

#2. 雑貨店が左に見えてきたら左へまがります。

#3. 駅前通りを真っすぐ行き、左の角の雑貨店を曲がって下さい。

#4. どの角にもまがらず、真っすぐに歩いていくと道路に出ます。そこを左に曲がると、左側は雑貨店になります。

#2. の文では「雑貨店」の手前で左に曲がることになってしまいかねない。#3. の文では「雑貨店が左角にある」ことはわかるが、「左の角の雑貨店を曲がる」は日本人としては奇妙な表現である。「雑貨店の角を左に曲がる」とすべき表現であるが、このような文は日本語教育初級段階の外国人によく見られる。#4. は「雑貨店」の位置もおかしいが、助詞の間違いだけではなく文章全体が幼稚園レベルとしか言いようのない表現である。

LM2→LM3：雑貨店の曲がり角からM小学校まで

ほとんどの学生が「果物屋」と「染物店」に言及しているが、ここでも次のような奇妙な表現がある。#5. は連体修飾句が異常に長く、#6. は#3. と同様に外国人によくみられる表現である。

#5. その雑貨店の角を左に曲がって右手に見える果物屋の角と染物店の角を通りすぎたM小学校の見える3つ目の角で右に曲がります。

#6. 果物屋と染物店を通り、さらに直進するとM小学校にぶつかります。

LM3：M小学校の角

M小学校に言及しているものは38例あるが、その位置の認識の仕方は様々である。#7. はM小学校の位置がおかしい。また、「まっすぐ歩くとM小学校につきます。」「その道をM小学校にたどりつくまで歩いて下さい。」「その道を、真っすぐに歩くと、M小学校にあたります。」のような表現もある。

#7. 3つ目のかどをすぎ右折すると左にM小学校があります。

M小学校に言及しない文は次のような表現になっている。#8. は助詞「と」の使用に問題がある。「突き当たったら」とすべきところである。#9. ～#11. は道がくいちがって交差していることに当惑し、考えた末にこのような表現になったものと思われる。#12. は更に視点が逆転して進行方向を間違えている。

#8. 果物屋や染物店を右手に直進し、つきあたると右に曲がります。

#9. 右手に染物店がありますので、その染物店を通り越した2本目の道を右折していただきます。

#10. 染物店から2つ先の道を右に曲がります。

#11. 染物店の前の道をまっすぐ歩いてください。そうしたら、Y字になっているので、右側に曲がります。

#12. まっすぐ行くと3つに道が分れていて一番左の道をまっすぐ歩いて行きます。

LM3→LM4：M小学校から川沿いのT字路まで

M小学校から川沿いのT字路までの経路が直線的でないことに言及したものは10名で、それを「道なりに」としたものが9名、「少しくねくねしていますが」としたものが1名いる。

LM4：川沿いのT字路、橋、信号

川沿いのT字路で「T字路」「突き当たり」などを用いないもの、「左折」を指示しないですぐに「橋を渡る」などとしたものが16名いる。その表現は例えば#13. ～#17. のようなものである。#13. の「M小学校の見える3つ目の角」は単に「M小学校の角」でよいし、「玉川上水の見えるところから右の角を曲がって」も「玉川上水を渡ってすぐ右に曲がる」とすればすっきりする。#13. と#16. は「見える」の使い方に問題がある。#14. と#15. は「通り」の概念がはっきりしていないのであろう。#15. は#8. に続く文である。それまで「玉川上水」には全く言及していないのに、突然「玉川上水に向かってその道」というのも奇妙で、「その道を行くと玉川上水の見える通りに出ます」というような表現にすべきであらう。#16. の「玉川上水の橋」は「玉川上水にかかる橋」とすべきである。

#13. M小学校の見える3つ目の角で右に曲がります。そこからまっすぐ行って玉川上水の見えるところから右の角をまがって1つ目の道を曲がったところにあります。

#14. M小学校のあるところで右折し通りに出るまで進み、I橋を渡ります。

#15. 玉川上水に向かっているその道を行き、通りに出たら左に曲がり、少し行ったところにある信号のところで右に曲がり、直進すれば私の家です。

#16. M小学校が前方に見えるので、そこを右折し、約2分ぐらい行って下さい。そして玉川上水の橋を渡って、すぐの信号を右折して下さい。

LM4→LM5：「私の家」の位置

橋を渡ってすぐ右に曲がってからの説明で「私の家」は次のように表現されている。a.b.c.の表現は正しいと言えるが、d.は不十分な表現である。e.は詳しいようでかえって分りにくい表現ではなかろうか。f.は橋を渡ってからの説明で視点が変わり、左右が逆転したものである。

- a. 私の家は突き当たりにある： 19例
- b. 私の家は真っ直ぐ行って行き止まりにある： 2例
- c. 真っ直ぐ行って正面にあるのが私の家： 2例
- d. 真っ直ぐ行くと私の家がある： 13例
- e. 私の家は1つ目の曲がり角を越した先にある： 4例
- f. 私の家の位置を正しく認識していないもの： 3例

4. 学生の文章

学生の文章で解例の文字数に最も近いのは179字で、6文のものと8文のものが1例ずつあった。この2例(A, B)と短い文章(C, D)、長い文章(E, F)をそれぞれ2例ずつ以下に示す。

4.1. 原文

A (6文/179字/ランドマーク：7)

- 1：20字：I 駅から真正面の太い道を直進して下さい。
- 2：27字：そうすると左側に雑貨店があるのでそこを左折して下さい。
- 3：34字：そして果物屋と染物店を通り、さらに直進するとM小学校にぶつかります。
- 4：23字：そこを右折して、そのまま道なりに進んで下さい。
- 5：30字：そうすると左折したところにI 橋があるのでそこを渡って下さい。
- 6：45字：渡るとすぐに左側に道があるのでその道を曲がって直進して行くと、突きあたりの家が私の家です。

B (8文/179字/ランドマーク：8)

- 1：17字：まずI 駅から出てまっすぐ行きます。
- 2：23字：そして雑貨店が左に見えてきたら左へまがります。
- 3：26字：すると右側に果物屋が見え、次に染物店が見えてきます。
- 4：34字：そして右側にM小学校が見えたら、その手前の曲がり角を右へ曲がります。
- 5：11字：するとつきあたります。
- 6：26字：そしたら左へまがり、I 橋を渡って玉川上水を越えます。
- 7：20字：そして信号のあるところを右へまがります。
- 8：22字：そして真すぐ行くと真正面に私の家があります。

C：短い文章の例(5文/108字/ランドマーク：8)

- 1：13字：I 駅からS 銀行方面に出る。
- 2：28字：S 銀行の前を通り、突き当たりまで行き雑貨店を左に曲がる。
- 3：39字：果物屋、染物店を右手にまっすぐ進みM小学校前を右に曲がる。
- 4：14字：道なりに進んだら左に曲がる。
- 5：24字：I 橋を渡ってすぐ右に曲がり、突きあたりが私の家。

D：短い文章の例(3文/157字/ランドマーク：8)

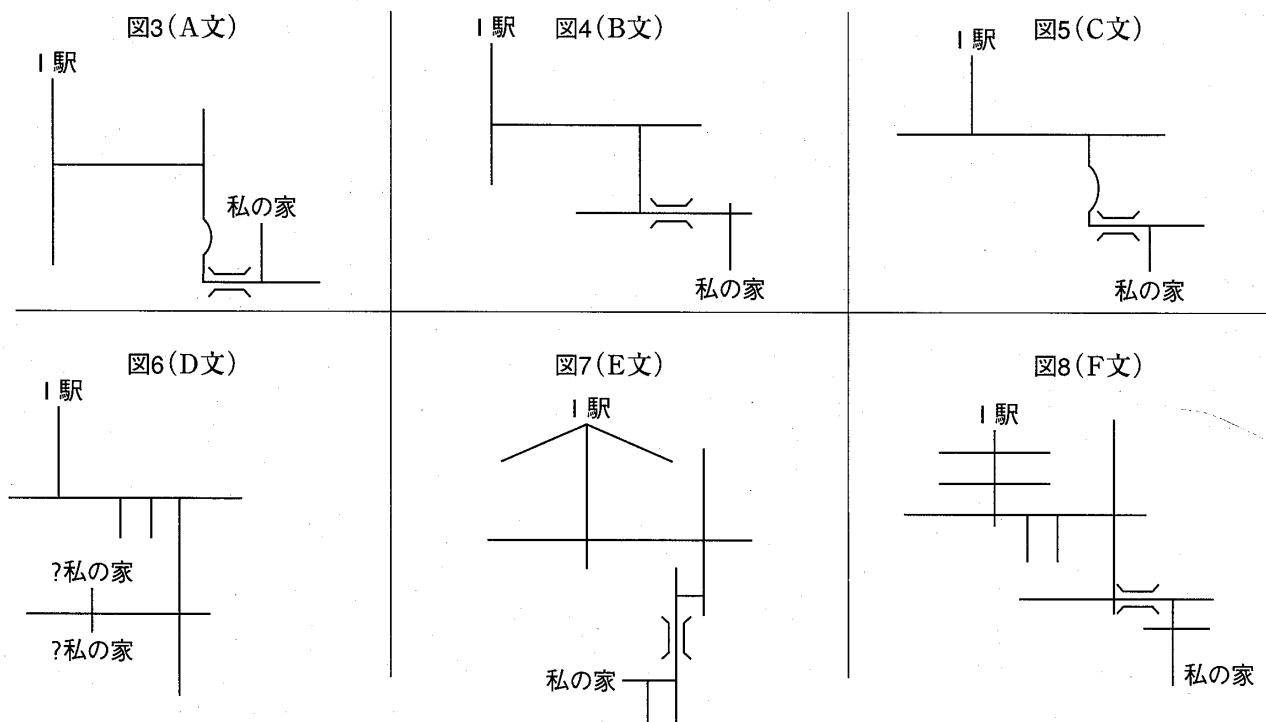
- 1 : 46字 : I 駅から公園と S 銀行の間の道をくだって行くと途中、左手に雑貨店が見え一本の道にぶつかります。
- 2 : 60字 : その雑貨店の角を左に曲がって右手に見える果物屋の角と染物店の角をとおりすぎた M 小学校の見える 3 つ目の角で右に曲がります。
- 3 : 51字 : そこからまっすぐ行って玉川上水の見えるところから右の角をまがって 1 つ目の道を曲がったところにあります。

E : 長い文章の例 (8 文 / 360 字 / ランドマーク : 11)

- 1 : 62字 : I 駅を出ると右側に I 公園があり、その右への道と、逆方向への道と、真ん中の正面まっすぐの道があるので、まっすぐの道を進みます。
- 2 : 19字 : すると、すぐ、左手に S 銀行があります。
- 3 : 45字 : 進んでいくと、つきあたって、左角に雑貨店のある T 字路にぶつかるので、そこを左に曲がります。
- 4 : 25字 : 歩いていけば、右側の果物屋と染物店の前を通ります。
- 5 : 37字 : そして、右上角に M 小学校のある少し右に曲がる道があるので、右に曲がります。
- 6 : 21字 : そうすると、M 小学校は道の左側になります。
- 7 : 45字 : ずっとまっすぐ進むと角があるので、右に曲がり、すぐまた T 字路にぶつかるので左に曲がります。
- 8 : 106字 : そして、玉川上水という川の上を渡る I 橋を渡って、道の左手に信号がくるところの横に右に曲がる道があるので、曲がって、まっすぐいき、左側にわき道があるけれど、それを 1 本無視してまっすぐ行った、つきあたりが私の家です。

F : 長い文章の例 (16 文 / 311 字 / ランドマーク : 9)

- 1 : 25字 : I 駅を降りると、まっすぐとした太い道路があります。
- 2 : 21字 : その道を左に見える S 銀行に沿って歩きます。
- 3 : 25字 : 十字路を 2 回通り越し、次の T 字路を左に曲がります。
- 4 : 17字 : そのとき左角には雑貨店があります。
- 5 : 28字 : その道を進んでいくと、右手のほうに 2 回、道路が見えます。
- 6 : 23字 : また果物屋、染物店がありますが、通りすぎます。
- 7 : 21字 : さらに歩いていくと、十字路にぶつかります。
- 8 : 9 字 : そこを右折します。
- 9 : 18字 : すると、左手には M 小学校があります。
- 10 : 22字 : その道をさらに歩くと、T 字路にぶつかります。
- 11 : 10字 : そこを左に歩きます。
- 12 : 13字 : そのときに I 橋を渡ります。
- 13 : 21字 : I 橋を渡ると、右手に一本道路があります。
- 14 : 10字 : その道を右折します。
- 15 : 27字 : 1 本の道路を通りすぎ、まっすぐ行くと私の家があります。
- 16 : 21字 : 私の家は I 駅から徒歩 12 分のところにあります。



A～Fの文に記入されたI駅から私の家へ至る道順をそれぞれイメージして描いたパターンが図3～図8である。Aは橋を渡ったところで視点が変わって、曲がるべき方向が逆転している。Bの「雑貨店が左に見えてきたら左に曲がる」という表現では曲がる位置が雑貨店の手前か向こう側かわからない。また、課題を与える際に「訪ねてくる友人に口頭で説明する」と条件を出してあるにもかかわらず、普通体で説明したところに問題がある。Cは小学校の位置が曖昧であるが、曲がる方向は分かる。しかし、その後の経路では左に曲がる地点がT字路であるということは分からない。Dは小学校のところで右に曲がることは分かるが、以後の経路が曖昧であり、最後の曲がり角では左右どちらに曲がるのか不明である。Eは小学校から川沿いのT字路に至る道が一本道であるにも関わらず「右に曲がる」としたために方向が狂ってしまった。Fは最後に「まっすぐ行くと私の家がある」としたために家の所在が「突き当たり」であることが分からない。解例と同じようなパターンが描けたのはB、C、Fだけである。

4.2.ランドマーク

- A(7)：I 駅、雑貨店、果物屋、染物店、M小学校、I 橋、私の家
 B(8)：I 駅、雑貨店、果物屋、染物店、M小学校、I 橋、玉川上水、私の家
 C(8)：I 駅、S 銀行、雑貨店、果物屋、染物店、M小学校、I 橋、私の家
 D(8)：I 駅、公園、S 銀行、雑貨店、果物屋、染物店、M小学校、玉川上水
 E(11)：I 駅、I 公園、S 銀行、雑貨店、果物屋、染物店、M小学校、玉川上水、I 橋、信号、私の家
 F(9)：I 駅、S 銀行、雑貨店、果物屋、染物店、M小学校、I 橋、私の家、徒歩12分

4.3.移動動作の順序と方向

- A：直進する、左折する、直進する、右折する、道なり進む、左折する、渡る、左側にある道を曲がる、直進する
 B：出る、まっすぐ行く、左へ曲がる、右へ曲がる、左へ曲がる、渡る、玉川上水を越える、右へ曲がる

真っ直ぐ行く

- C : 出る、突き当たりまで行く、左へ曲がる、まっすぐ進む、右へ曲がる、道なりに進む、左へ曲がる、橋を渡る、右へ曲がる
- D : くだる、左へ曲がる、右へ曲がる、まっすぐ行く、右の角を曲がる
- E : 出る、まっすぐの道を進む、左へ曲がる、右へ曲がる、まっすぐ進む、右に曲がる、左に曲がる、橋を渡る、右に曲がる、ま行く
- F : 降りる、S銀行に沿って歩く、左に曲がる、進む、右折する、左に歩く、橋を渡る、右折する、まっすぐ行く

4.4. 存在を表す動詞

A : ある、B : 見える、ある、C : /、D : 見える、ある、E : ある、F : ある

C文は「ある」「見える」などの存在を表す動詞や、経路の状態を表す「ぶつかる」「突き当たる」などの動詞を全く使用していないために文章が短くなっているとも考えられる。

4.5. 状態を表す動詞

A : ぶつかる、B : 突き当たる、C : /、D : ぶつかる、E : つきあたる、ぶつかる、F : ぶつかる

4.6. 文型

A : 第1文(LM1)→(LM2) : ~して下さい。

第2文(LM2) : そうすると、~があるので、~して下さい。

第3文(LM2)→(LM3) : そして、~して、~すると、~します。

第4文(LM3) : ~して、~してください。

第5文(LM4) : そうすると、~があるので、~して下さい。

第6文(LM4)→(LM5) : ~すると、~があるので、~して、~すると、私の家です。

B : 第1文(LM1)→(LM2) : まず、~して、~します。

第2文(LM2) : そして、~したら、~します。

第3文(LM2)→(LM3) : すると、~が見え、次に、~が見えてきます。

第4文(LM3) : そして、~が見えたら、~します。

第5文(LM4) : すると、つきあたります。

第6文(LM4) : そしたら、~し、~して、~します。

第7文(LM4) : そして、~します。

第8文(LM4)→(LM5) : そして、~すると、私の家があります。

C : 第1文(LM1) : ~する。

第2文(LM1)→(LM2) : ~し、~し、~する。

第3文(LM2)→(LM3) : ~し、~する。

第4文(LM3)→(LM4) : ~したら、~する。

第5文(LM4)→(LM5) : ~したら、~が私の家。

D : 第1文(LM1)→(LM2) : ~すると、~が見え、~にぶつかります。

第2文(LM2)→(LM3) : ~して、~します。

第3文(LM3)→(LM5) : ~して、~して、~にあります。

E : 第1文(LM1) : ~すると、~があり、~があるので、~します。

第2文(LM1) : ~すると、~があります。

第3文(LM1)→(LM2) : ~すると、~して、~するので、~します。

第4文(LM2)→(LM3)：～すれば、～を通ります。

第5文(LM2)→(LM3)：そして、～があるので、～し、～します。

第6文(LM3)：そうすると、M小学校は道の左側になります。

第7文(LM3)→(LM4)：～すると、～があるので、～し、～にぶつかるので、～します。

第8文(LM4)→(LM5)：そして、～して、～があるので、～して、～し、～があるけれど、～して、～が私の家。

F：第1文(LM1)：～すると、～が～あります。

第2文(LM1)→(LM2)：～します。

第3文(LM1)→(LM2)：～し、～します。

第4文(LM2)：そのとき、～があります。

第5文(LM2)→(LM3)：～すると、～が見えます。

第6文(LM2)→(LM3)：～がありますが、～します。

第7文(LM2)→(LM3)：～すると、～にぶつかります。

第8文(LM3)：～します。

第9文(LM3)：すると、～があります。

第10文(LM3)→(LM4)：～すると、～にぶつかります。

第11文(LM4)：～します。

第12文(LM4)：そのときに、～します。

第13文(LM4)：～すると、～があります。

第14文(LM4)：～します。

第15文(LM3)→(LM4)：～し、～すると、私の家があります。

第16文：私の家は～にあります。

A、B、Cの文は個々の文の長さがほぼ適正である。Dは3文で書き上げているために個々の文の長さが2倍になっている。それに関わらず文型が単純であるのは長い連体修飾を用いているからである。Eは「～ので」を6回、「～すると」を4回、「すると」「～すれば」「～けれど」をそれぞれ1回ずつ使用していて、接続表現が目立って多い。「歩いていけば、右側の果物屋と染物店の前を通ります」や「左側にわき道があるけれど、それを1本無視して」などは不必要である。総じてランドマーク地点の解説がくどすぎる。文の長さは短いものが19字と21字、長いものは62字と106字など非常にバランスの悪い文章である。FはDやEと反対に文を短く切りすぎていて、最も短い文が9字、最も長い文が28字である。これはやや煩雑な感じがする。また、「T字路を左に曲がります。そのとき左角には雑貨店があります」「T字路にぶつかります。そこを左に歩きます。そのときにI橋を渡ります」と「そのとき(に)」が2回使用されているが、これは不必要である。

4.7. 連体修飾

A：真正面の太い道、左折したところ、その道、突き当たりの家、私の家

B：その手前の曲がり角、信号のあるところ、私の家

C：橋を渡ってすぐ右、私の家

D：公園とS銀行の間の道、一本の道、雑貨店の角、右手に見える果物屋の角と染物店の角をとおりすぎたM小学校の見える3つ目の角、玉川上水の見えるところ、右の角をまがって1つ目の道を曲がったところ

E：その右への道、逆方向への道、真ん中の正面まっすぐの道、左角に雑貨店のあるT字路、右側の果物屋と染物店の前、右上角にM小学校のある少し右に曲がる道、道の左側、玉川上水という川の上を渡るI橋、道の左手に信号がくるところの横、右に曲がる道、それを1本無視してまっすぐ行っただけあたり

F：まっすぐとした太い道、左に見えるS銀行、1本の道、I駅から徒歩12分のところ

1文の長さが適正なA、B、Cには長い連体修飾は見当たらないが、1文が長いDとEには奇妙な長すぎ

る連体修飾が目立つ。Fの「まっすぐとした」は口癖なのだろうか。接続表現と共に連体修飾についても学ばせる必要がある。

5. おわりに

学生の原文は6例しか載せなかったが、問題点はほぼ出尽くしている。これを見れば、決まりきった道順説明の用語も常識として持ち合わせていない女子短大生の姿が浮かんでくる。これによって初めに挙げた仮説の(1)一般常識に欠ける、が証明されたことになる。「T字路」「突き当たり」「正面」などの名詞や、「道なりに」「川に沿って」などの副詞的語句が道順説明に使用できないということは語彙の貧しさを表している。これらの語句は大学生や社会人としては常識の範囲内であろう。語彙が乏しいためにさまざまに工夫を凝らして(?)表現しようとする学生たちがいっそ哀れである。

仮説(2) キーワード・ランドマークの認識ができない、という点は地図を眺めて何が道順説明の鍵となるか掴めないことに現れている。一見複雑そうな地図でもパターン化して認識することができれば、必要なランドマークも自ずから分かるというものである。この地図では「突き当たり」が一つのキーワードになっている。道順説明だけでなく、その他の文章においてもキーワードが見つけられなければ理解は難しいし、要約もおぼつかないことになる。

仮説(3) 表現法を知らない、ということは表現しようとする内容によって文型が異なるということを意識せずに記述している点に現れている。道順説明における文の基本的パターンはランドマーク発見の拠り所としての「～すると、～がある／見える」という表現と移動方向を指示する「～し、～する」という表現である。

仮説(4) 物事を正しく認識し、相手に理解させようとする配慮がない、という点に関しては文を長々と続ける学生が多いことに現れている。自分たちが文章の一節(1パラグラフ)を理解するのに、何度も初めに戻って読み返していることを忘れているのだろうか。特に長い連体修飾を用いている学生は説明するのが精一杯で、それを聞いたり読んだりする相手がいることに思いが至らない。

日本語表現の時間には接続法、連体修飾法、助詞の用法などとともにランドマーク(キーワード)の見つけ方なども身につけさせたいものである。